



## 東北復興 MHSW にゆうす

第8回定時総会において、本協会の英語による表記及び略称が「Japanese Association of Mental Health Social Workers」及び「JAMHSW」に変更になったことに伴い、このにゆうすも「東北復興 MHSW にゆうす」と名称変更させていただくこととなりました。名称は変わりますが、引き続き東北の「今」を、そして「発信、検証、発展的収束」をテーマに続く委員会の取り組みをご報告してまいります。  
(東日本大震災復興支援委員会一同)

### 東日本大震災復興支縁オンライン交流会のご報告

去る3月20日、東日本大震災復興支縁オンライン交流会が開催されました。合計36名の構成員が参加し、岩手・宮城・福島からのシンポジストによる講演と4グループに分かれて想いやこれからを語り合う交流会を行いました。

3名のシンポジストからは、それぞれより震災当時の様子をお伺いし、震災直後からこの10年の歩みの中で個人や支部の取り組みを通し感じられたことや、未来のことを見据えた備えや心構えなどをお話いただきました。10年は区切りでも何でもなく、これからも続いていく復興の日常の通過点でしかないことを改めて考えさせられました。また、災害支援や復興支援においても、平素からのかかわりやラポール、ネットワークなど日頃の精神保健福祉士としての姿勢や原点こそが大切であると、どのシンポジストからも語られたことが印象的でした。(※次号より、シンポジストによる講演の内容についてもご報告させていただきます。)

4グループでの交流会では、全国各地からご参加いただいた構成員それぞれから、参加にあたっての想いや、シンポジウムを受けて感じたこと、復興支援やこれからの災害にどう取り組んでいけるかなどが話し合われ、活発な交流会となりました。新しい形での試みとなりましたが、現地に赴いて見聞きし交流することは叶わなくとも、こうしてオンラインという形だからこそ参加出来た方々との出会いや顔ぶれがあり、貴重な時間となりました。皆さまとあらたな縁(ゆかり)を結ぶことが出来たように感じます。

委員会では、今後も復興支縁ツアーや交流会等の開催を通し、現地と構成員をつなぎ共に考える機会を設けていけるか、検討を続けてまいります。ご参加された皆さまもありがとうございました。



シンポジスト  
岩手県支部  
副支部長 土田滋様



シンポジスト  
宮城県支部  
支部長 小野正生様



シンポジスト  
福島県支部  
支部長 水野英一様



ご挨拶いただいた  
田村綾子会長

#### アンケートより一部ご紹介します。

それぞれの「被災」があり、「その後の10年」があったことを改めて実感しました。そして、東日本大震災は「終わっていない」ことも感じました。けれど、東北6県で始まった復興支援委員会が、人は交代しても岩手・宮城・福島の各県協会を中心として今も復興の歩みを続けていることを知りました。その歩みは必ずしも均等に行き渡らず、網の目からこぼれる存在もあることを感じ、コロナウイルスの感染拡大とともに一層孤立し孤独感を抱えている人がいることを痛感させられた気もします。そのことにソーシャルワーカーとして共通認識を持てる仲間と出える貴重な時間になりました。

ありがとうございました。

「特別な事だけするのではなく、普段の業務の中なかかわりを持って行くことも大切」という言葉を聞いて一つ答えを見つけれられた気がする。今まで、自身が災害のことに関わって行かなければならないという事や特別な事をしていない事に劣等感を感じる事もあった。しかし、普段の業務やそれ以外の日常生活の中で職員、患者さん、利用者さん、地域の人とかかわらなければ、支援は出来ないのは当然なのは、と痛感した。

オンラインの面白さを感じる機会ではありましたが、かえってツアーに行きたくなりました。



今後も、継続的に復興支縁ツアーを続けていただけたらと思います。次回は実際に現地に行けたらと思っています。

東北に心を傾ける同志がこんなにたくさんいるんだと思うと、励みになりました。



「復興支縁ツアー」発足には、先立って行われた関東圏支部の現地視察合宿の経験が生かされました。今回は、当時の東京協会の会長関原様よりご寄稿いただきました。

## 「合宿 in 福島」で得たもの

(一社) 東京精神保健福祉士協会 理事 関原 育



2012年11月に「合宿 in 福島～つながろう、福島と東京と～」が開催されてからもう9年が経つのですね。東日本大震災だけでなく福島のお酒を飲んだり映像を観たりしても、ふと合宿の事やバスで廻った現地の景色を思い出します。私にとって忘れがたい経験です。

そもそもこの合宿は東京協会の理事の一人が協会として被災地の精神保健福祉士の話を聴く機会を作れないかと提案したことから始まりました。熊本大会で福島県精神保健福祉士の事務局に声をかけると提案した理事の尽力であれよあれよという間に形となっていきました。今考えても奇跡的なタイミングだったと思います。

その後ホームページなどで希望者を募った結果東京からは24名の参加者が集まり郡山に伺いました。当日は福島県精神保健福祉士会の方など4名のシンポジストの講義が行われその後グループワークに進みました。震災から1年半が経ち、何もできなかった居たたまれない気持ちで来てしまったと感じて私は緊張していましたが、シンポジストの体験を伺いグループで話し合ううちにそんな思いは消えました。大変な困難と痛みを聴いてほしいという皆さんの気持ちは「福島を忘れないでください」とのメッセージとともに東京の参加者に強い印象を残しました。合宿の報告レポートにも震災被害を風化させない、今自分ができる支援を考えたいとの言葉が多く残っています。

翌日の現地視察も福島県精神保健福祉士会の菅野正彦氏が自らマイクロバスを運転してくださるという至れり尽くせりの内容でした。苦境の地で踏ん張って支援を続ける心のケアセンターなごみの皆さんに勇気づけられ、南相馬の津波被害地の壮絶な状況に言葉を失いました。中でも原発事故で一部立ち入り禁止だった小高区での時間が止まったかのような街並みには放射能被害の甚大さを突き付けられ心を揺さぶられました。一人の人間としてこの景色を目に焼き付け、一生忘れてはいけなと強く思いました。

福島の仲間を声を実際に聴きたいとの思いが生んだこの合宿は共に学び食べ思いを分かち合う出会いの場となりました。東京協会の勢いに任せた要望を受け入れて下さった福島県精神保健福祉士会の皆さんの暖かな懐の深さに今でも感謝の気持ちでいっぱいです。改めてお礼を申しあげるとともに伝えて頂いたことを胸に刻みソーシャルワーカーとして活動していきたいと思えます。

## 10年目の春を迎えました

(公社) 日本精神保健福祉士協会 副会長 水野 拓二

私は新卒から2008年までの13年間東北地方に勤務していました。ソーシャルワーカーとしての現在の基礎を作ってくれた場所、ある意味第2の故郷が東北地方であります。2011年当時、テレビから映し出される映像や情報に驚愕し、親戚や知人等に連絡するもしばらくはつながらない日々が続き不安な時間を過ごしたことが思い出されます。そんな大切な場所に大きな被害が出ている実情を知り、何かできないか、かかわりたいと思案しているとき、先輩から本協会の被災地支援ボランティア参加へのお声掛けをいただき、職場の理解もあり福島県南相馬市での活動に参加することができました。その後2014年に本協会の理事に就任し、2018年度から本委員会活動のバトンを前任者より引き継ぐことになり、これも何かの「縁」だと感じています。

2021年3月20日に開催された「復興支縁オンライン交流会」で「10年が区切りなのか…」という投げかけがありました。委員会の今後の活動に対しての投げかけでもあるように受け取りました。震災からの復興は一律には進みません。被災地によって復興のあり方もスピードも異なります。復興にはより繊細さが必要であると考えることができました。本委員会は「息の長い支援」「つながり、つなぐこと」「支援から支縁へ」を大切に、委員長はじめ委員の皆さんが一丸となり、熱量はありながらもアットホームな雰囲気でも活動を展開してきています。この間多くの構成員諸氏に活動へのご理解とご協力をいただきましたこと、この場を借りてお礼と感謝申し上げます。また、皆様にはこれからもどのような形であっても被災地や被災地の人々、被災地で働く仲間とつながっていただきますよう、心からお願い申し上げます。

## ☆物販☆@北海道大会に向けて～第56回全国大会・第20回学術集会～(被災地障害者作業所等製品販売事業)

2021年9月10日、11日に札幌コンベンションセンターで開催予定の北海道大会での物販について、新しい形での開催を検討中です！詳細はまた次号以降にお知らせいたします♪

## 【ご意見・ご感想をお寄せください】

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。お寄せいただいたメッセージは、本紙面や本協会ウェブサイトにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません)。

投稿方法はFAXもしくはE-mail:office@jamhsw.or.jpにてお願いいたします。★題名に「MHSWにゆうすについて」とご記入をお願いいたします。★

第52号 2021年5月15日発行

編集：公益社団法人日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

発行：公益社団法人日本精神保健福祉士協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

★URL：<https://www.jamhsw.or.jp/>

★東日本大震災復興支援サイト <https://www.jamhsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>

